

## 外部評価報告書

令和元年度 泰明小学校 外部評価報告書	
外部評価委員：山本佐江子委員長 佐藤正志副委員長 藤井千恵子 和田 利次（敬称略） 報告書作成者：山本佐江子委員長	
評価時期	平成31年 2月
1 重点目標の評価	
重点目標1について・・・ 「思いやりの心の育成」	
・昨年度、保護者・児童の学校に対する高評価に比べ、教員の自己評価は、低い傾向が見られ、保護者や児童との受け止め方の違いがみられた。教員自身が改善に向け努力項目を挙げて取り組むと共に、研究教科として体育科にて「心の教育」をテーマに取り組んだ結果、学校全体が落ち着き、あいさつ・マナーやルールの向上が見られた。このことは、全ての学校生活に功を奏し、学力・体力向上や、人間関係の向上に非常によい結果を招いたことは喜ばしい。今後も、保護者・地域・教職員が連携し、更なる向上を目指したい。	
重点目標2について・・・ 「確かな学力の保障と学習意欲の喚起」	
・本校では、①基礎・基本の徹底 ②学習意欲の向上 ③地域との連携による学習活動を中心に推進した。「よく考えて学習に取り組んでいる」の項目は、多くの保護者、教員から肯定的な評価を得ている。更に、教員の授業改善を図ると共に、学力向上プランの確実な実践を行うことで、各種学力テストも例年以上の好成績を得ることができた。地域の方々からの熱い思いや期待に支えられている泰明小の良き伝統をこれからも継続されたい。	
重点目標3について・・・ 「児童の健康づくりの推進」	
・「オリンピック・パラリンピック教育の推進」は、児童のスポーツに対する関心・意欲を高めると共に、夢や希望を持たせる点からも効果的であった。保護者、教員ともに高い評価を示している。課題であった学校の特色である「泰明タイム」は、充実を図れた。加えて研究教科を体育科に設定して取り組んだことで、各種体力テストも例年以上の好成績を獲得できた。	
2 今後の改善に向けた意見	
・新学習指導要領の全面実施に併せ、通知表の項目を見直し、「子どもにとってわかりやすい通知表」にすることで、子ども自身がメタ認知できる内容とすることで、教師も児童も自身の課題に気づけるようになるのではないかと。	
・過保護やスマホ依存症にする子育ては、問題も感じる。ICT教育が盛んになるからこそ、そういうものに頼りすぎない利口な使い方を学ぶ必要がある。スマホは視野狭窄や脳萎縮に繋がるとの研究結果も出ている。「遠くを見る」「全体を捉える」力は、ICTでは育ちにくい。保護者にもそういった情報を発信していくとよい。	
3 その他の意見	
・保護者や地域は、大変協力的であり期待も大きい。校長、副校長を中心とした教職員は、その期待に応えるべく真摯に教育活動に取り組み、十分に成果を上げている。	

